



「定年になってやる事が無くなったらボランティアでもやって暇つぶしをするか。」

長年の勤務生活を終えて定年を迎えた人や定年満期が近い人などから良く聞く言葉です。では通常軽い意味で使用される「ボランティア」とは一体何のことでしょうか。この変な日本語は会社仕事からは自由になったがまだ元気のある人が、やむを得ぬ親の介護など以外の自由時間に自主的意思で趣味道楽などを気ままに勤しむこと、というようなところが現実的理解でしょうか。

確かに今時の定年退職者は、馬車馬の如く世界を股にかけて自己犠牲も厭わず働き続けて定年でやっと長年の苦勞から解放さるのでしょうか。もうこれ以上の束縛や責任からは自由になって穏やかな坂道を下るように悠々自適に生活するという考え方が順当のように聞こえます。

でもわたしはそんな安易な考え方には素直には同調できないのです。近年は企業でも単に収益を上げるだけでなく社会的責任(Social responsibility)が求められる方向に急旋回しています。それは企業だけでなく定年後人間にも同様に求められる責任と考えます。

では具体的には何をどうしたらよいのでしょうか。青少年の国際親善促進、病人の介護活動、災害罹災者の支援活動、自然環境保護活動、文化、芸能、スポーツなどの振興、など枚挙に暇がありませんがいずれも非営利的とはいえ退職者でも健康でさえあればかなりの程度まで可能なことばかりではないですか。

基本はガッテン。でもここで大事なことは、実際定年になったらまずは骨休めをして閑になったらゆっくり動き出そうという考えはでは大抵失敗するということです。自転車に乗っているのと同じで急に止まったら大抵ひっくり返ってしまいますし、助走が無ければ走り出せません。定年の時期は予知できるのでからひっくり返る前に兎に角動き出すことです。こんな状況に有る皆様に多角的に援助するのが「三井ボランティアネットワーク」です。必ず何かうまいものが見つかります。

電話一本で事は動き始めます。「The sooner, the better」です。